

桑下城跡 2009

現地説明会資料

平成21年11月21日（土）



調査区遠景（調査前）



主 催

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

調査支援

国際文化財株式会社

調査の経緯・経過

桑下城跡の調査は、国道 363 号の改良工事にともなう事前調査として、愛知県建設部道路建設課から、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターがおこなっています。

今回は、平成 16 年度、19 年度、20 年度に続く、4 回目の調査で、最終年度になります。国際文化財株式会社の支援を受け、 $2,100 \text{ m}^2$ を平成 21 年 9 月から 12 月の予定で調査しています。

桑下城跡の立地と環境

桑下城跡は、瀬戸市の北東部にある品野盆地の北東、水野川と蟹川にはさまれた標高約 210m の丘陵上に立地する平山城で、規模は東西約 220m、南北約 100m を測ります。

周辺の遺跡で当センターが調査したものとしては、西の低地に上品野蟹川遺跡（縄文～戦国）、東の谷をはさんだ丘陵上に桑下東窯跡（戦国）、さらに東の丘陵斜面に上品野西金地遺跡（縄文～江戸）があります。また、南東の水野川をはさんだ標高約 330m の尾根線上に品野城があります。



桑下城跡全景（第 3 次調査）

桑下城跡周辺の地形図（縮尺 1:5,000）



桑下城の歴史

品野地区には桑下城のほかに、品野城、山崎城、落合城、阿弥陀ヶ峰城、片草城の5カ所の城館があります。そのうち江戸時代以前の史料に登場するのは、桑下城、品野城、片草城です。

桑下城に関する最古の史料は江戸時代の寛文年中（1670年前後）に尾張藩により編さんされた『寛文村々覚書』です。

「一桑下古城跡壹ヶ所 東西三拾間南北四拾間 先年松平内膳家老、永井民部居城之由、
今は柴山」

とあり、城主を松平内膳（品野城主松平信定）の家老の永井民部としています。

他の史料もほぼ同じ内容になっていますが、寛政4（1792）年に作られた「春日井郡上品野村絵図」に付載する「絵図面別紙之覚」では、

「一、城根と申所内膳正御屋敷之由申伝へ只今御見取畠也
一、桜井内膳正源信定家老 長江刑部長江民部申伝候」

とあり、城根（桑下城）を松平信定の屋敷跡としています。また、松平信定の家老を長江刑部、長江民部としています。

ちなみに長江氏は、定光寺に残る『祠堂帳』に「科野長江修理進」の名があり、永正15（1518）年に科野（品野）の有力者として長江氏がいたことがわかっています。

寛政7（1795）年成立の『因幡志』という地誌に船越氏所蔵の「今川義元感状写」が載っています。

「於尾州科野城合戦夜討謀略、殊首數五十余級討取候事、粉骨之至今感喜候、
仍太刀一腰金帛進入之候也、永禄元年四月朔日 今川義元 花押 船越五藤次殿」

とあり、永禄元（1558）年に科野城で合戦があったことがわかります。桑下城の名はでてきませんが、これまでの発掘調査の成果から、このとき桑下城は今川方の城として織田方と戦ったと考えています。

織田方との戦いは翌年、翌々年にもあったとされ、永禄3（1560）年の戦いで、織田信長の総攻撃にあい、品野三城（品野、桑下、落合城）は焼き払われて廃城となったといわれています。しかし、残念ながらこのことを江戸時代の史料で確認することはできませんでした。

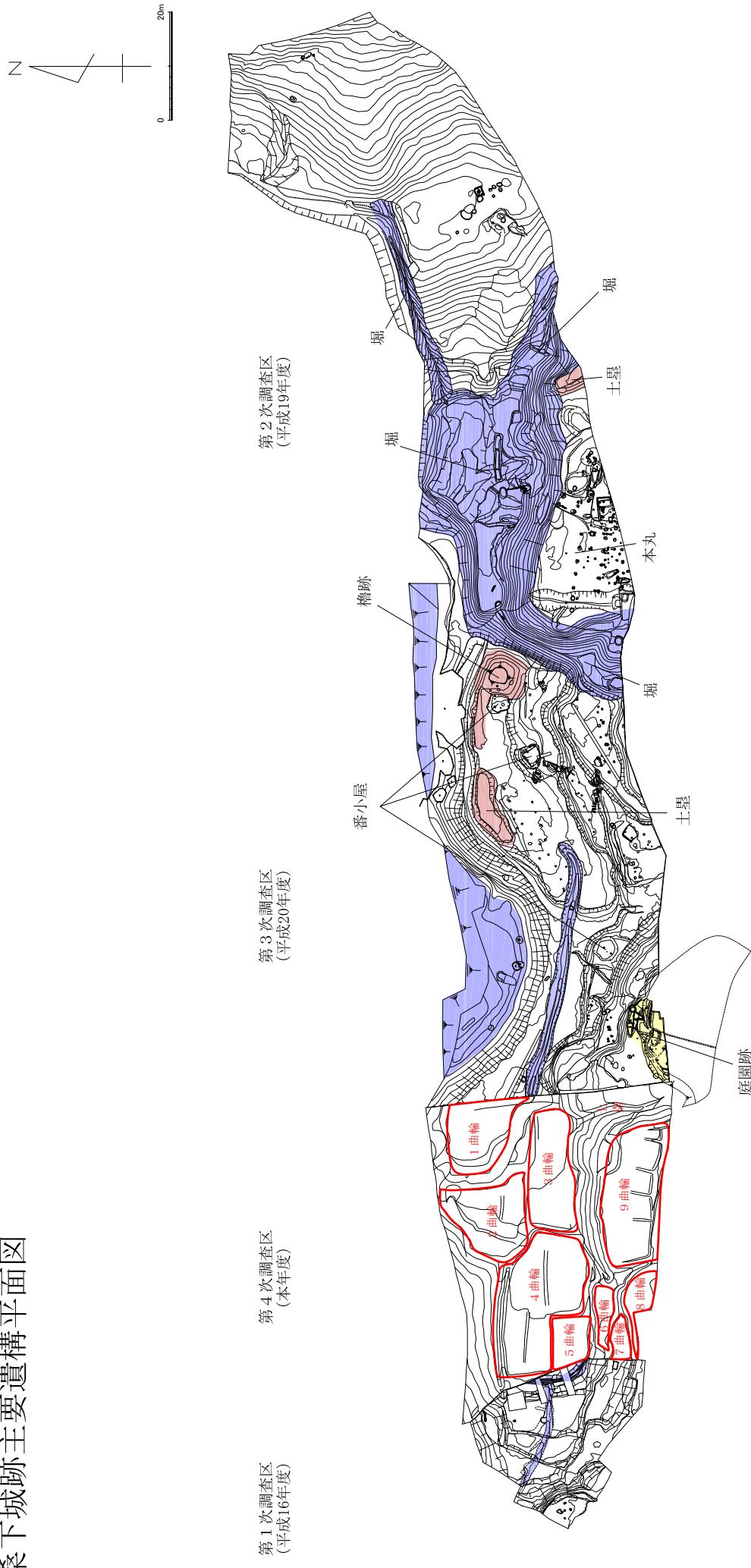


本丸東側の堀から出土した和鏡（第2次調査）



本丸西側の葉研堀（第3次調査）

桑下城跡主要遺構平面図



過去の調査成果

第1次調査（平成17年1～3月）

丘陵西端部 1,000 m³

調査地点は、江戸時代初期（正保から承応期（1645～1654年））に描かれたと考えられている「上品野村古城絵図」（名古屋市蓬左文庫所蔵）に「芝」と記され、城外とされている部分です。しかし、曲輪や犬走りと思われる平場がみつかったことにより、桑下城の範囲が丘陵西先端まで広がることがわかりました。



曲輪を囲む溝（第1次調査）

今回の調査で4・5曲輪を囲むことがわかりました。

第2次調査（平成19年9月～20年3月）

丘陵東側部分 4,000 m³

本丸の北西部部分とそれを囲む堀と本丸の北東にある平場を調査しました。「古城絵図」では、本丸の北東部分に土塁が、本丸の北の堀の一部が水堀として描かれている一方、北東部の平場は描かれていません。

本丸で掘立柱建物跡（1間×4間）、礎石建物跡（1間×1間）、井戸などがみつかりました。本丸の西側部分は古い段階の堀を埋めてつくられていることがわかりました。

本丸を囲む堀は、東と西は薬研堀、北は箱堀になっていました。東西の堀を掘ったときに出土した土を堀の外側に盛り上げ土塁を築いていることがわかりました。また、東の堀から保存状態の良い和鏡が出土しました。



本丸（第2次調査）

東西北の3方向は堅固な堀で守られていたことがわかりました。

第3次調査（平成20年8月～21年3月）

丘陵中央付近 3,300 m³

本丸西側の堀と、丘陵を切り込んでつくられた14ヶ所の平場を調査しました。本丸西側の堀は3度にわたり造り替えられていることがわかりました。

最頂部の曲輪で櫓跡、土塁、番小屋2棟、建物跡と思われる柱穴列を、調査区南西部の曲輪で井戸、池、石組み溝をともなう庭園跡がみつかりました。

縄文時代の陥穴、古代の焼失住居、中世の山茶碗窯など、城が築かれる以前の遺構もみつかりました。

本丸と他の曲輪群との構造の違いから、まず丘陵先端側に在地領主の城館がつくられ、これを元に拡張・改変を繰り返していたことがわかりました。



庭園跡（第3次調査）



番小屋（第3次調査）

本年度調査区(7・8・9曲輪)



今回の調査成果

今回は昨年度の調査区の西側、曲輪と考えられる平場の調査です。平場は9ヶ所確認でき、1曲輪から9曲輪と仮称して調査を進めています。調査の途中ですが、現在わかっている成果をまとめると次のようになります。

1～3曲輪

調査区北東部にある平場です。明治17年の地籍図には、用材山と記されている場所です。現在のところ明確な遺構はみつかっていません。

4曲輪

調査区北西部にある平場です。地籍図には、畠と記されている場所です（5～9曲輪も同じ）。西側と北側に曲輪を囲むように溝がめぐっていることがわかりました。この溝は江戸時代以降も畠の排水施設として利用していたようです。また、5曲輪との境で東西方向にのびる大溝がみつかり、西側の溝は大溝が埋まつた後に掘られていますので、大溝は城の改変により埋められた可能性があります。

5曲輪

調査区西部、4曲輪の下段の平場です。4曲輪との境でみつかった大溝から、4曲輪との段差は江戸時代以降の畠を造成するときにつくられたもので、城の時期には4・5曲輪はひとつの曲輪であったと考えられます。南側に盛り土をして平場を広げていることもわかりました（4曲輪も同じ）。

6曲輪

調査区南西部、4・5曲輪の下段の平場です。今のところ明確な遺構はみつかっていません。

7曲輪

調査区南西部、6曲輪の下段の平場です。江戸時代以降に南側に盛り土をし、8曲輪との境に石垣を築いたことがわかりました。大型土坑が2基みつかりましたが、長方形の形で中央に小穴があること、1基の土坑から石鏹が出土したことから縄文時代の陥穴の可能性があります。

8曲輪

調査区南西部、6・7・9曲輪の下段の平場です。南側は盛り土をしていましたが、盛り土の上面と下面でそれぞれ東西方向に続く柵列を、下面で9曲輪から続く溝をつけました。出土遺物としては、小穴から狛犬の鼻が出土しました。

9曲輪

調査区南東部、8曲輪の上段の平場です。昨年度の調査でみつかった庭園跡のある曲輪との境に土壘を、8曲輪との境に石垣を築いていました。桑下城で城の時期の石垣がみつかったのは初めてです。

南側は1m以上盛り土をしています。深さを確認するために入れたトレーナーからみつかった石列により、2回以上の造成がおこなわれている可能性があります。

現在は一番新しい段階の遺構を調査しています。曲輪の中央部で屋敷を区画すると思われる南北方向に続く石組み溝や直角に折れ曲がる溝などが、北東部で井戸と思われる大型土坑がみつかりました。直角に折れ曲がる溝は、東西方向の北側部分のみ石が組まれていました。溝のなかは焼土や炭化物で埋まっており、直接火をうけたと思われる場所もありました。火をうけた痕跡は下層でもみられるため、この曲輪では2回以上の火災にあった可能性があります。

出土遺物は、石組み溝のなかから、猪形水滴、鳥形水滴、合子、灰釉小皿、鉄釉皿、土師皿などが、直角に折れ曲がる溝のなかから、水指、徳利、天目茶碗などが、盛り土のなかから、兎形水滴、水滴、茶入、建水、耳付水注、瓶子、蓋、卸皿、擂鉢、灰釉皿、灯明皿、天目茶碗、匣鉢、はさみ皿、中国産染付碗、茶臼、鉄製品（刀子？、釘）、ガラス玉（数珠？）などが出土し、量・質とも他の曲輪を圧倒しています。特に猪、兎、鳥などの動物を模した水滴は大変珍しいものです。

遺構や遺物の状況から考え、この曲輪は、桑下城のなかでも重要な位置を占める場所であったと思われます。

城とは直接関係がありませんが、古い時代のものとして、北側の斜面で縄文時代の陥穴と思われる土坑と旧石器時代の細石核が出土しました。



8曲輪全景



井戸（9曲輪）



9曲輪全景（第一面）



8・9曲輪間の石垣



猪形水滴、鳥形水滴が出土した石組み溝（9曲輪）



遺物出土状況（9曲輪 直角に折れる溝）